

資源評価調査事業－Ⅱ

イカナゴ

小林智彦・羽生和弘・林清二¹⁾

1) 津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理を行ってきたが、近年資源減少が著しく、2016年漁期から7漁期連続で解禁見合わせとなっている。イカナゴ資源の回復を図るため、資源状況の把握調査を実施するとともに、自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することを目的とする。

方法

1 イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定のための資料とした（実施時期：1、2月）。

結果及び考察

1 イカナゴ仔魚分布調査

2023年1月12、13日及び2月17、18日に伊勢湾全域において実施したボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査では、仔魚は採集されず仔魚の加入は極めて悪く、過去の仔魚採集量の結果（表1）からも、2023年漁期の資源量については、解禁を見合わせた2016年～2023年漁期と同様に極めて厳しい状況となると予想された。

イカナゴの資源管理については翌年度親魚量20億尾をとり残す、とり残し資源量一定方策が執られてきた。近年の調査結果からイカナゴ資源が非常に悪化していると予想されたことから、2016年漁期以降、7漁期連続でイカナゴ漁を解禁見合わせとしたが、資源回復の兆候は認められていない。

表1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

漁期(年)	ボンゴネット稚仔魚採集量(尾/㎡) ※愛知水試のデータを含む						解禁日	加入量 (億尾)
	12月下旬 (湾口部)		1月上旬		1月中旬			
	愛知県	三重県	愛知県	三重県	愛知県	三重県		
H25 2013	0~32	233	71	21	27		2月28日	302
H26 2014	0	815	26	70	29		3月2日	292
H27 2015	0	57	40	1	3		3月6日	89
H28 2016	0	0	0	0.07	0.04	0.05	見合わせ	-
H29 2017	0	0	0.02	0	0.02		見合わせ	-
H30 2018	0	0	0	0	0	0	見合わせ	-
H31 2019	0	0	0	0	0	0	見合わせ	-
R2 2020	0	0	0	0	0	0	見合わせ	-
R3 2021	0	0	0	0	0	0	見合わせ	-
R4 2022	0	0	0	0	-	-	見合わせ	-
R5 2023	0	0	0	0	-	-	見合わせ	-

※2017年1月下旬の全湾平均は、1月31日に愛知県が調査した三河湾と2月2-3日に三重県が調査した伊勢湾の結果を併せ1月下旬の値としている。

このことは夏眠場の水温が上昇したことで、イカナゴ夏眠魚がへい死したことあるいは衰弱したイカナゴ親魚が資源の再生産に寄与できなかったことが推察される。なお、長期間イカナゴが採捕されていないことから、来年度からはブリやサワラ等の魚食魚の胃内容物にイカナゴが捕食されていないかを中心に調査を進める必要がある。

なお、2023年漁期も三重県と愛知県の各漁業者代表の協議により、イカナゴ資源量は回復しておらず非常に悪化しているとの判断から、来漁期のための親魚を確保するために、2016年漁期から8漁期連続でイカナゴ漁の解禁を見合わせとなった。